

写真提供：野村路子

2022年

1月27日(木)

～ 30日(日)

開場11時～19時



アウシュヴィッツに消えた子どもたち

テレジン収容所の 若い画家たち展

JR武蔵小金井駅
南口徒歩1分

宮地楽器ホール ▲市民ギャラリー
▼小ホール

入場
無料

テレジンを語りつぐ会 代表

野村路子氏 講演会



いまを生きる子どもたち
へのメッセージ

2022年

1月27日(木)

開演14時(開場13時45分)

★要事前申込(申込方法は裏面)





ハナ・カリホヴァー
1944年5月15日
12歳でアウシュヴィッツへ



マリカ・フリードマノーヴァー
1944年10月4日
12歳でアウシュヴィッツへ



ルース・ハイノヴァー
1944年10月23日
10歳でアウシュヴィッツへ



1万5000人のアンネ・フランクがいた

第二次世界大戦の嵐が吹き荒れる中、チェコの北部に作られたテレジン収容所には1万5000人の子どもたちがいました。あのアンネ・フランクと同じように、みんな将来への夢や希望を持ちながら“ユダヤ人に生まれた”というそれだけの理由で、学校へ行くことも自由に遊ぶことも許されなかった子どもたちです。

収容所では、親から離され、わずかな食事しか与えられず、労働力としてしか生きる資格を認められていませんでした。そんな現状で生きる希望さえ失っていた子どもたちにもう一度笑顔を取り戻そうと命がけて立ち上がった大人たち…その一人フリードル・ディッカーは、「明日はきっと良い日が来る。それを信じて絵を描きましょう」と子どもたちに語りかけました。

拾った紙切れに、小さくなったクレヨンや絵の具で、大好きな学校や遊園地を描く子どもたちには笑顔が戻りました。でも、生きて「良い明日」を迎えられたのはたったの100人だけ。そして、4000枚の絵と数十編の詩が遺されていました。

子どもたちの“命のメッセージ”である絵からは、子どもたちの声が聞こえてきます。「学校へ行きたかった!」「野原を走りたいかった!」「お腹いっぱい食べたかった!」…そして、「もっと生きていたかった!」と。

絵の前に立ってください。子どもたちの声を聞いてください。

そして、親子で話し合ってください。今、学校へ行ける幸せ、真っ白な画用紙に絵を描ける幸せ、お腹いっぱい食べられる幸せを…

テレジンを語りつぐ会 代表 野村 路子

■講師プロフィール■

1989年 プラハでテレジン収容所の子どもたちの絵と出会い、その事実を伝えようとチェコ大使館、ユダヤ博物館等と交渉。

1991年 日本で初めて『テレジン収容所の幼い画家たち展』を開催。

2010年 「フリードルとテレジンの小さな画家たち」が、学校図書(株)「みんなと学ぶ国語・6年」に掲載開始。

数少ない生き残りの人たちへのインタビュー他、展覧会、執筆、講演活動、テレジンの子どもたちの詩を中心に詩作・構成をした朗読と歌によるコンサート『テレジン もう蝶々はいない』を全国各地で行っている。

『15000人のアンネ・フランク』『子どもたちのアウシュヴィッツ』『生還者(サヴァイヴァー)たちの声を聴いて』など著書多数。

2022年1月27日(木)
野村路子氏 講演会

▶▶▶要事前申込▶▶▶

・申込開始日:2022年1月11日(火)から

・申込先☎:042-304-8339

・申込先URL:

<https://forms.gle/iF6dt1hq3psr4YLe8>

・申込先QRコード:



主催 NPO法人ひ・ろ・こらぼ

後援 小金井市 小金井市教育委員会 社会福祉法人小金井市社会福祉協議会(さくらファンド助成)

協力 「テレジンを語りつぐ会」代表 野村路子 「テレジンを語りつぐ会 府中」